

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」浜北駅前校		
○保護者評価実施期間	令和6年 10月 15日	～	令和6年 11月 9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53 (回答者数)	30
○従業者評価実施期間	令和6年 10月 21日	～	令和6年 11月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 11月 20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・テナントの一室を借りている事で、他施設との交流が可能となっている。	・左記のお陰で消火訓練の見学ができた、他施設が運営するイベントに伺える機会を有している。	・こちらの施設でもイベントを企画しながら利用者間の行き来を模索し、放課後等デイサービス後における未来を提示できるような連携を築きたいと考える。
2	・公共交通機関が多くある為、放デイ利用の上級生たちが自力で行き来できるようになっている。	・「生活スキル」向上の観点において、校舎で学んだ知識を駅で試すという形で使用活用している(また、前回の振り返りを確認する種にもなっている。)また、「認知・行動」の分野では時間の理解を振り返る場にもなっている。(支援で培う「何分前」等の確認に周囲環境を当てている。)	・こちらイベントを介して、実際に職員と出かける等の場を設けながら、家庭との往復ばかりで無く、児の行動範囲を広げると同時に、加えて必要とされる金銭等の計算、これらが並行して成長できるように取り組みを検討したい。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・親御様と児童発達支援管理責任者との距離が離れている。	・今までモニタリングにおいて、児発管が意欲的に面談を行ってきていない可能性が上げられる。(この為、事業所内評価におけるコメントが著しく少ない)	・今後はモニタリングばかりで無く、定期的に相談等にも乗りながら、より仲良しの関係になれるよう関わっていく。(次年度には、より多くのコメントが得られるよう働きかける。)
2	・過去において、外部との繋がりが著しく弱かった事もあり、サービス担当者会議等の参加に率先意識が低かった。結果、連携という構築が遅れている。(利用者宅の情報が著しく少ないケースがみられる。)	・今までにおいて「きらり浜北駅前校」という名義を打ち出しながらの外部貢献が少なかった事が要因であると考え。	・今後、自立支援協議会への参加や相談支援事業所との定期的な連携、サービス単車会議の率先した開催を行いながら、「きらり」という名前と療育の方向を示して、多くの団体に「きらり」を知って貰える様図っていく。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」浜北駅前校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数

53

回収数

30

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	24	5	1	0		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	26	3	0	1		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	24	6	0	0		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	26	4	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	27	3	0	0		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	24	2	0	4		
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	26	4	0	0		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	27	2	0	1		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	27	2	0	1		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	23	5	0	2		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	4	5	10	11		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	26	3	0	1		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	27	2	0	1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	24	4	0	2		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	27	3	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	23	4	1	2		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	28	1	0	1		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	11	9	3	7		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	22	2	0	6		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	26	2	0	2		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	19	5	0	6		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	25	2	0	3		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	24	1	0	5		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	24	3	1	2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	24	1	0	5		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	24	2	1	3	・事故が起きた事は無いので分かりません。	・事故に関しては注冊する事はもちろん、安全対策における指針も確認し合い、常の防止に努めています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	29	1	0	0	・どの方も優しく接してくれているのでとても安心しています。	・そのようなご意見を頂き、大変うれしく感じております。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	25	5	0	0	・いつも楽しみにしています。	・そのようなご意見を頂き、大変うれしく感じております。
	29	事業所の支援に満足していますか。	26	4	0	0	・受験の為に支援をして下さり有難いと思っています。	・今後もお子様のサポートができますよう精進していきます。

	公表	事業所における自己評価結果
--	----	---------------

事業所名	こどもサポート教室「きらり」浜北駅前校	公表日 2025年 2月 15日
------	---------------------	------------------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		・パーテーションを活用しながら、適宜な距離間の下で、スペースの確保に努めている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		・基準人員を適切に配置し、目つその他該数の職員の在任をおりて、手厚く支援するよう回っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		・玄関から支援室に上がる際に、小上がりになっているがスロープを設けている。また、地階から事業所に来る際は、EVを利用できる配慮が成されている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		・粗大運動やリトミックを行う際に、机や椅子、パーテーション等の危険物を排除し、安全を確保できる空間を確保している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		・パーテーションで個別の空間の確保は測られている。ただ、声の漏れを懸念する際は、相談室の活用も考慮に入れている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		・PDCAサイクルに関しては、職員間の申し送りを通じて、振り返りを行いつつ、その情報を持って各位の支援に生かそうと皆一壁に取り組んでいる。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・現在は評価集計を提示しながら「見える化」の下、保護者からの意見を受けて改善に努めるよう努力している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・朝礼において職員間の報告を密にしながら意見の交換を行い、各位の欠けている部分を補充したり、業務の改善を図っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2	・現在、第3者評価は行う代わりに、きらりの他校舎の管理者（児発監）が検査に入り、評価のあり方を分析しながら改善に当たっている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	1	・社会研修等を行い、目つ市からの情報やリタリコ等の情報を活かして研修参加をはかっている。	・今後は、事例研修等を校舎内で行いながら、適宜な支援が行えているか等を見直し、より質の高い支援を運営できるようにしていく。
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		・支援プログラムに関しては5領域をベースに活用し、適宜にプログラムへ落とし込みながら支援を行っている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		・アセスメントでは親御さんの判断に加えて、児発監が計画作成に際し再度分析し直し、その下で計画を作るよう対応している。（改善がある際は、責ベン等での検証も入れながら対応している。）	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		・アセスメントを実施した後、職員間で話し合い適切な支援を行えるようにしている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		・計画書は職員が何時でも閲覧できるように管理されている。また計画書に基づいて支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		・浜松市アセスメントツールを用いて適宜、評価分析を行っている。また追加があった場合は、職員間で情報共有している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		・5領域に加えて、左記の支援を追加した計画案を取り入れて支援がなされている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		・朝礼の中で、チーム制を用いながら支援を適宜に行うよう配慮している。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6			・固定化する事は極力避けているものの、こどもの特性に合わせて支援プログラムを作成している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6			・時間を調整して、個別と集団との時間を回り合いながら、各位が両方の支援対応を適宜に連携し合っているようにしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			就業時に、朝礼を行い、申し送りを行う事によって職員間が情報を共有できる環境を整えている。また、配課でも残せる体制を整えている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6			・支援終了時は出来事を記録に書き、次の日に振り返りを行い問題点や改善点を共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			・記録は2日以内に完成させ、次回支援に入る職員にきちんと参考となり得るような徹底がなされている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			・概ね6ヶ月を周期として、モニタリングを進めつつ、計画作成を材料にしながら次回計画を作成している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	6			・基本的には、4項は適宜に入っている支援がなされている。やイベント等を有する余剰の活動は、今後再考を見直し提供に尽力する。	・4つの基本的活動において、「余剰活動」の運営が行えていない部分があり、今後は「余剰活動」にも留意し、支援に活かしていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6			・計画にも自己選択性取り入れる等、随所で選択の決定権は与えている。また、判断がし難い場合は、選いのヒントは与えるものの、判断は委ねる対応をしている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			・サービス担当者会議では、児童だけでなく、指導員の参加も入れるよう必ず配慮し対応へ当たる（Zoomなどの活用もして、参画を促している。）	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	2		・医師との連携は相談支援事業所を介して行っている為、適宜に行っている事は多い。但し、関係機関との連携は常にとるようには（教育現場も含めて）行っていない。	・左記にも記載したが、医師とのやり取りに関しては、相談支援事業所を媒体に使うケースが多い。今後は課題の内容を円滑にするにも、医師の参画を確認する。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	2		・学校との関わりはサービス担当者会議を通して行う事が多く、訪問時に、児の集団時の様子を確認したいという観点からの行事や予定確認となっている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1		・連携に関する報告会は、「かけはし」という浜松特児の書式を活用しながら就学するお子様へは対応がされている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	1		・また、移行された方は居ないが、情報を提供できるように準備はできている。	・但し、その情報が最新か否かは確認する必要があるため、今後は左記を想定して、常に最新の情報を更新する。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	2		・適宜、研修参加機会を設け、職員が参加できる対応を取っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	3		・現在は同時利用の児は居るものの、職員の派遣や児の交流は出来ていない。まず、職員の交流を心がけたい。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	2		・協議会における研修では参加の意思を図りつつ、研修等で児童発達支援の依頼がなされれば対応に当たっている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	1		・観察様にはフィードバックを介して、当日行った計画の意図やその様子、今後の展望を伝える等、常に共通認識を蓄えている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6			・ファミリーカフェを介して、学びの場を観察隊には提供できるようにしている。加えて、用と話し合いの場ではペアレントの一部を活用できるように話し、家庭支援の一員としている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			・契約時にはすべての項を説明をする一方で、提示や公開も行ってあり、常に見える化にも対応している。また、随時の説明対応できるように児童が役割に当たっている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			・サービス等利用計画を参照しつつ、モニタリングでは観察隊さんへ再度主訴の部分を確認しながら、その主訴に近づけるように5領域を介して改善に繋げる説明を行うようにしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			・計画説明に関しては、ご家庭の主治を振り返りながら、5領域との関係性と主訴に寄り添うための改善を踏いてサインを貰うように対応している。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		・子育ての相談には、児童発達支援管理責任者や経験の深い職員が親御様の困り事を聞く一方、支援に落とすようにしながら、最終的にフィードバックでその辺りの不安事のままで届くよう支援している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	4	2	・保護者会の活動は行えていない。ただ、ファミリーカフェ等を介して、交わりの場を作りながら、交流への機会作りには尽力している。	・保護者会に関しては、次年度一度アンケートを取りながら、集まる為の課題を検討して進めていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		・苦情や体制不備に関しては、早期に上長へ確認を取り、改善の有無に努めている。また改善が図れた際は、一報を入れて双方の確認を取るようになっている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		・ブログを介して、校舎情報が届くようにしている。また、Line等の活用も行い、校舎情報を発信するように心がけている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		・個人情報保護に重視する言葉への説明を契約時には適切に行い、その上でブログ等ではお子様の顔や不参加希望の意向を必ず尊重して事に当たるよう対応している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		・現在は障害を有する方は見られない。ただ、外国語の方にも分かるような簡易した言葉での話しかけは、常に意識して行うよう対応している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		・テナント同士であいさつを行う一方、共催イベントやテナント全体で行う防災訓練に参加させて貰いながら他機関協力の下で運営がなされている。	・今後は、きらりがイベントを用意し掛けを行う事で、より強力関係を築いていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1	左記のマニュアルはすべて策定されており、玄関前に掲示し、親御様や職員にも見える化を図っている。(定期訓練は月一で複数の内容を想定した対応に当たっている。)	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		・BCPの策定は確立されており、BCPにおける定期見直しも確認を含めて年内内で実行している。(改定時は確認の下で対応に当たっている。) 加え、1ヶ月に1度避難訓練も行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		・アセスメント・基本情報からの確認と面談時における状態での確認で留めている。(落ち着きのない様子や支援した際は、親御様や相談支援事業所との確認にも力を入れている。)	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	3	・アセスメント・基本情報からの確認と面談時における状態での確認で留めている。(基本食べ物を与えていない為、このような形に終結している。)	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		・計画の作成は玄関前にある運営規定等で周知できるよう取り計らっている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		・安全計画に関しても、室内の危険等を振り返りするよう朝礼の備考で言い合ったり、定期的な確認(テナント管理会社へ提出)を行っている。(親御様には書類での説明で対応している。)	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		・ヒヤリハットが上がった際は、全体で共有する一方で、再発防止の策も出し合いながら、再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		・月一で虐待における認識の確認を進める一方、役員は外部研修の参加を促しつつ、その内容を各職員に落としながら説明するなど、適宜に内外問わずに研修を進めている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		・重要事項説明書を介して、一連の内容を説明し、計画へ取り入れるよう心がけている。		